

## 第1学年1組 道徳学習指導案

### 1 主題名 「いじめや偏見をなくし、誰もが幸せに過ごせる学級・学年をつくる」

資料名：「魚の涙」（出典：光村図書「道徳1 きみが いちばん ひかるとき」）

内容項目：C-(11)「公正、公平、社会正義」 正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること

### 2 主題設定の理由

- 人は誰もいじめや差別のない社会を理想としている。しかし、人は自分や自分に近い仲間を中心にした狭い価値観でものを見たり考えたりしがちである。中学生にもなると、「いじめや差別はいけないことだ」と頭で理解はしているが、実際に自分がかかわることになると、いじめや差別の原因をされる側に求め、「周囲もしているから」と、偏ったあいまいな価値観で自分を正当化し、自分や自分の仲間を中心としたものの見方や考え方をしがちである。そういった状況の中でも、単に現状を諦めて見過ごすのではなく、道徳上どのような問題があるかを考え、その解決にむけて、考え共有することは、公正・公平でよりよい学級や学年・社会を築いていくために大切なことである。
- 本学級の生徒は、素直な心で物事に取り組む姿が見られる。支援学級の生徒や、通級教室に通う生徒に対して、自分たちがどう接し、どう支えになるかを考えようとする生徒が多い。しかし、一方では、できないことや失敗を責め、自分と違った言動を行うことを許容できず、批難してしまうという生徒も少なくない。そのため、自分の意志で行動することに関して自信を持たず、周囲に流されてしまい、真の人間関係がつかれない生徒も多い。これは、原因を相手に求め、相手のことを考えずに自分の思いをぶつけてしまう自分自身の中の「弱さ」に気付くことができていないからだと考えられる。そこで、相手に思いをぶつけることで安心するという自分自身の「弱さ」について考え、自分自身のいじめや差別につながる気持ちに向き合うことが必要である。そして、自分自身がいじめや差別をなくしていくためにできることは何かを考え、実際に行動できるようにしたい。
- 本資料「魚の涙」は、メジナは狭い水槽に入れると、必ず1匹を仲間外れにして攻撃してしまう。広い海ではこんなことは起こらない。これは、学級や学校といった狭い人間関係の中で起きてしまういじめや差別の本質を表している。狭さは、空間的なものだけでなく、価値観や個性の自由ささえ見えなくしてしまう。狭い人間関係や自分の間違った価値観にとらわれず、もっと広い世界や考え方に目を向けてみよう、という資料である。

指導にあたっては、まず、広い海と水槽では何が違うかに着目し、なぜ狭い世界だといじめが起これるのかを考えさせ、いじめや差別の原因を無意識のうちに相手に求めてしまう姿勢に気づかせる。次に、中心発問として、自分がどのような心の状況のときに、相手のことを考えずに自分の思いをぶつけてしまうのかを考えさせる。ここでは、自分自身の不安感や自信のなさを、相手にぶつけ、自分の有意性を保つことで安心感を得て解消するといった自分の「心の弱さ」に気づかせる。最後に、いじめや差別をなくしていくためには、自分はどのような姿勢で過ごしていくかを考えさせることで、道徳的価値をとらえさせる。

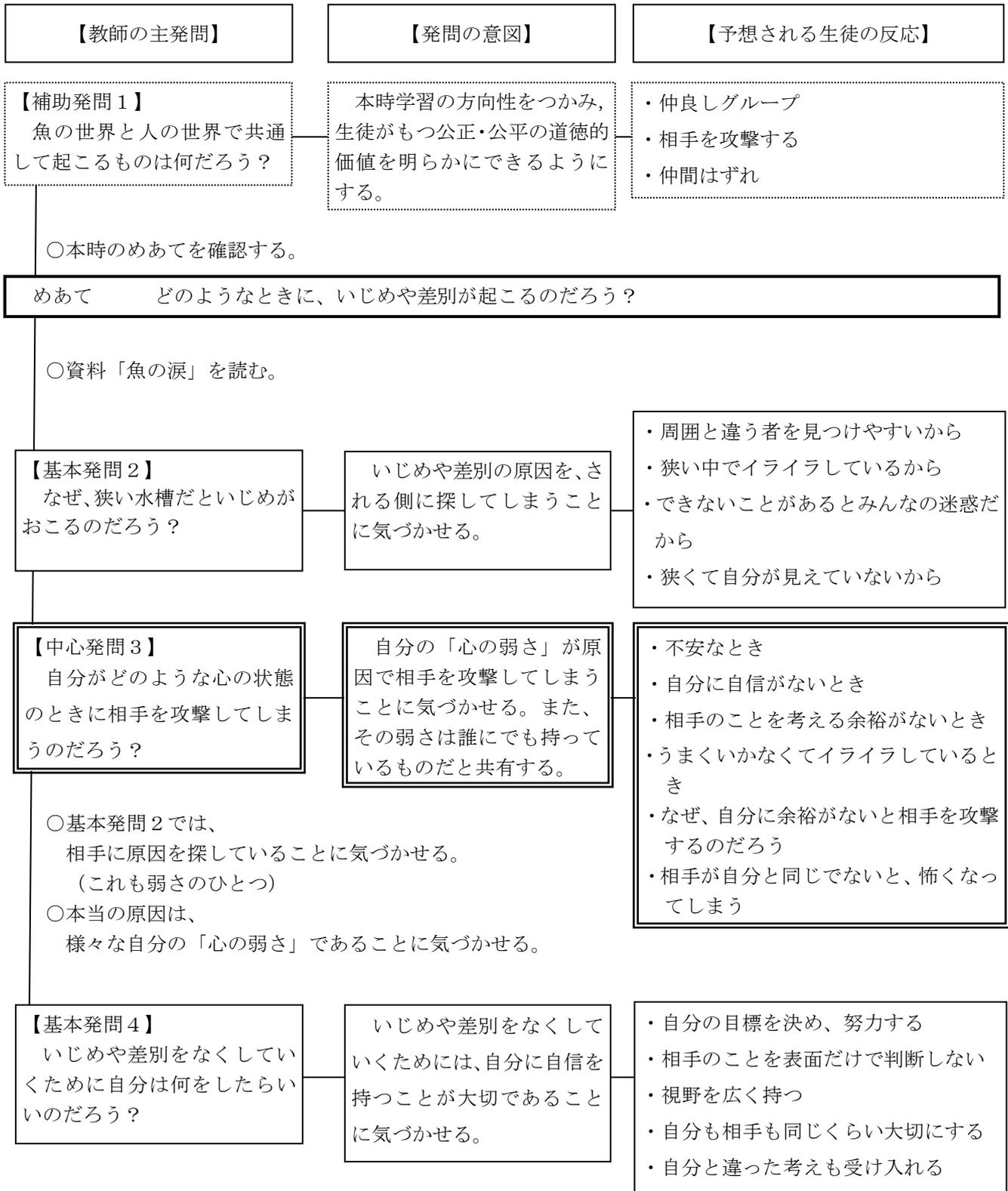
3 本 時 平成30年 12月11日 火曜日 1校時 於：1年1組教室

4 ねらい いじめや差別はする側の問題だと認識し、差別する側の持つ心の弱さを見つめ、自分にできることを考えることで、差別のない学級・学年を築いていこうとする態度を養う。

5 準 備 学習プリント 本文資料

## 6 展 開

段階	学習活動と内容	自分事の間い	具体的な支援	配時	形態
つかむ	1 「さかなクン」について紹介する。 (1) 魚の世界に人と同じこと (いじめ) があることを説明する。 (2) めあてを確認する。		○何が起きているかを意識づけるために、考えさせ、何人かに言わせる。	5	一斉
	めあて どのようなときに、いじめや差別が起こるのだろうか？				
さぐる	2 広い海と狭い水槽では何が違うのかを考える。 ◇発問「なぜ、狭い水槽だといじめがおこるのだろうか？」 ・周囲と違う者を見つけやすいから ・狭い中でイライラしているから ・できないことがあるとみんなの迷惑だから	・海と水槽は何がちがうだろうか？ ・なぜ「狭さ」が関係あるのかな？ ・みんな同じ種類なのになぜいじめるんだろう？	○いじめや差別の原因を相手に探してしまうことに気づかせるために、海と水槽を比較し、「(視野の) 狭さ」に着目させる。	10	個
深める	3 相手に思いをぶつけてしまうとき、自分はどのような考えや思いがあるのか考える。 (1) 自分はどのような考えや思いがあるのか考える。 ◇中心発問「自分がどのような心の状態のときに相手のことを考えずに自分の思いをぶつけてしまうのだろうか？」 ・不安なとき ・自分に自信がないとき ・相手のことを考える余裕がないとき (2) 班で交流し、発表する。	・自分だったら、どんなときに、相手のことを考えず自分勝手に思いをぶつけてしまうのだろうか？  ・こんな考えもあるのか。これは自分も同じ考えだな	○自分の「心の弱さ」が原因で相手に思いをぶつけてしまうことに気づかせるために、「自分」に注目して考えさせる。  ○「心の弱さ」は誰にでもあるということ共有するため、グループで交流を行う。	5	個
生かす	4 いじめや差別をなくすために、自分自身がこれからどう考え、行動していくかを考える。 ◇発問「いじめや差別をなくしていくために自分はどうしたらいいだろう？」 ・自分の目標を決め、努力する。 ・相手のことを表面だけで判断しない。 ・視野を広く持つ。	・自分ができることってなにか ・何をしていたら自信を持てるんだろう？	○自分に自信を持つために、これから何をすべきかを考えさせる。	10	個
	5 本時の感想を書く。			5	



○相手のことを考えて行動することは、相手の考えや意見を受け入れ自分の視野を広げることから、自分を大切にすることや自信にもつながることに気づかせる。

○今日の感想を書く。

# 魚の涙

著：さかなクン

魚の世界にもいじめがある。  
小さな学校の中にも。  
狭い社会の中にも。

中学校一年生のとき、  
吹奏楽部でいっしょだった友人に、  
だれも口をきかなくなったときがありました。  
いばっていた先輩が、  
三年生になったとたん、  
急に無視されたこともありました。  
突然のことで、  
ぼくには訳がわかりませんでした。

でも、魚の世界と似ていました。  
例えば、メジナという魚は、  
海の中で仲良く群れて泳いでいます。  
狭い水槽にいっしょに入れたら、  
一匹を仲間外れにして攻撃し始めたのです。  
ケガをしてかわいそうで、  
その魚を別の水槽に入れました。  
すると、  
残ったメジナは、ほかの一匹をいじめ始めま  
した。  
助け出しても、  
また次のいじめられっ子が出てきます。  
いじめっ子を水槽から出しても、  
新たないじめっ子が現れます。  
広い海の中なら、こんなことはないのに、  
小さな世界に閉じ込めると  
なぜかいじめが始まるのです。  
同じ場所にすみ、同じえさを食べる、  
同じ種類どうしです。

中学時代のいじめも、  
小さな部活動で起きました。  
ぼくは、いじめる子たちに  
「なんで？」ときけませんでした。  
でも仲間外れにされた子と  
よく魚釣りに行きました。  
学校から離れて  
海岸でいっしょに糸を垂れているだけで、  
その子はほっとした表情になっていました。  
話を聞いてあげたり、  
励ましたりできなかつたけれど、  
だれかが隣にいるだけで、  
安心できたのかもしれない。

ぼくは変わり者ですが、  
大自然の中、  
大好きな魚に夢中になっていたら、  
嫌なことも忘れれます。  
大切な友達ができる時期、  
小さな籠の中でだれかをいじめたり、  
悩んでいたりしても、  
楽しい思い出は残りません。  
外には楽しいことがたくさんあるのに、  
もったいないですよ。

広い空の下、広い海へ出てみましょう。

